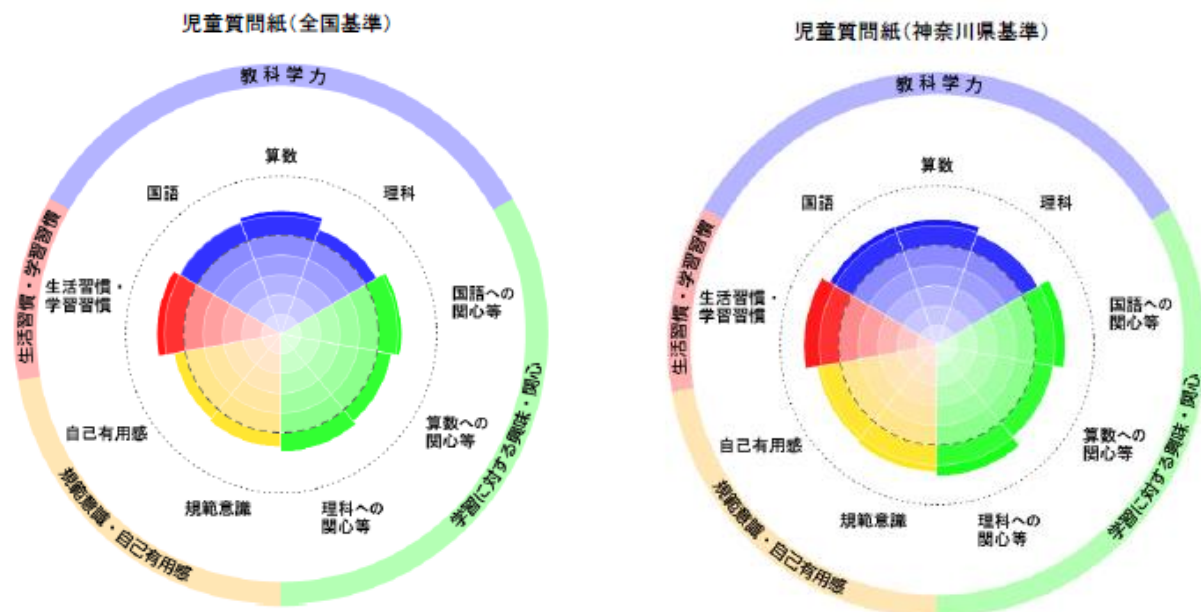


令和4年5月に行われた全国学力・学習状況調査（第6学年）における本校の結果が分かりましたので、お知らせします。



※点線部分 (-----) が全国平均・神奈川県平均を表しています。

<主な結果>

国語では、全国や県の平均と比べて高い正答率でした。内容別に見ると、「読む」項目は正答率が高く(78.7%)、「書く」項目は低い傾向(58.0%)にあります。具体的には、「登場人物の行動や気持ち、互いの相互関係について、叙述や描写から捉える」問題は正答率が高くなっています。記述式の「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける」問題は正答率が低く、無回答率が高くなっています。

算数では、全国や県の平均と比べて正答率が高く、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていて、それを活用することについても概ねできているといえます。内容別に見ると、「数と計算」(76.9%)「図形」(76.5%)「データの活用」(76.5%)の項目は正答率が高い傾向にあります。具体的には、「表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目にあたる数を求める」「図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解している」問題は正答率が高くなっています。すべての問題で無回答率が低いです。

理科では、全国や県の平均と比べて高い正答率でした。内容別に見ると、B区分「生命を柱とする領域」は正答率が高く(78.3%)A区分「エネルギーを柱とする領域」が低い傾向(56.5%)にあります。具体的には、「自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」「観察などで得た結果を他者の気付きの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」問題は正答率が高くなっています。「日光は直進することを理解している」「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」問題は正答率が低く、無回答率が高くなっています。

生活意識調査では、「学校に行くのは楽しいですか」「友達と協力するのは楽しいですか」「自分には、よいところがあると思いますか」などの質問において、全国や県の平均を大きく上回り、学校生活を楽しみ、自己有用感をもって過ごしている様子がうかがえます。一方で、「将来の夢や目標を持っていますか」という質問では、全国や県の平均をやや下回っていました。

<課題や改善点>

学習においては、基礎・基本を一層身に付けつつ、それを応用する力をさらに伸ばしていく指導を進めます。具体的には、どの教科においても自分の考え・意見をまとめたり説明したりする力を高め、根拠を基に、文に書き表す力が伸びるように、指導を積み重ねていきます。

生活面では、キャリア教育を進めながら、自分の将来についての見通しをもち、目標を自分で設定しながら自己の力を高め、その力を一人ひとりが実感できるよう、指導していきたいと思えます。

以上の内容を、すべての教職員が共有し、今後子どもたち一人ひとりへの指導に生かしていく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。